

# 大学生の「いじめ」に関する価値意識の一考察

—A大学生の「いじめ」に関する価値意識調査結果を中心として—

山上賢一

## 1 目的

今日、新聞・雑誌などのメディアに小学生・中学生・高校生などの「いじめ」による自殺の記事が大きく報道されていて、このことが教師・学校不信を世間に拡大させている。この記事が市民・保護者・教育対象者(児童・生徒・学生)などの間に流布し、教師の体罰の問題にも発展してきていて、教師の仕事にも悪影響を及ぼしている。「いじめ」を予防できれば、「いじめ」に悩んでいる児童・生徒をも救い、市民・保護者・教育対象者の学校・教師に対する信頼の回復につながるのではないか。このような願いを込めて、A大学生に「いじめ」に関する価値意識調査を行った。

## 2 方法

2013年度にA大学生、男性92名、女性90名にアンケート方式で「いじめ」に関する価値意識調査を行い、その結果をまとめた。調査結果を中心として「いじめ」の様態、原因、などを論じ、「いじめ」の予防策などについての報告をしていきたい。

## 3 結果

<p><b>問1 性別</b></p> <p>男性 92 51%</p> <p>女性 90 49%</p>	<p><b>問4 いじめとは</b></p> <p>悪口・からかい 126 15%</p> <p>殴る・蹴る等暴力 147 17%</p> <p>言いがかり等 140 17%</p> <p>仲間はずれ・無視 150 18%</p> <p>笑われる事をさせる 111 13%</p> <p>物隠し・物汚し 156 19%</p> <p>その他 11 1%</p>	<p><b>問7 いじめられる側の問題</b></p> <p>家庭 138 27%</p> <p>学校 70 14%</p> <p>対人関係 140 28%</p> <p>地域社会 24 5%</p> <p>性格 122 24%</p> <p>ない 6 1%</p> <p>その他 5 1%</p>	<p><b>問10 今後いじめは無くなるか</b></p> <p>無くなる 10 5%</p> <p>変わらない 114 63%</p> <p>増加する 28 16%</p> <p>分からない 28 16%</p>
<p><b>問2 年齢</b></p> <p>10代 0 0%</p> <p>20代 181 99%</p> <p>30代 1 1%</p> <p>40代 0 0%</p> <p>50代 0 0%</p> <p>60代以上 0 0%</p>	<p><b>問5 いじめを目撃したらどうするか</b></p> <p>止めに入る 51 17%</p> <p>先生に知らせる 97 32%</p> <p>何もしない 43 14%</p> <p>友達に知らせる 63 21%</p> <p>親に知らせる 32 11%</p> <p>その他 14 5%</p>	<p><b>問8 いじめられる側の問題</b></p> <p>あると思う 87 46%</p> <p>ないと思う 38 20%</p> <p>分からない 59 32%</p>	<p><b>問11 いじめを無くすには何が必要か</b></p> <p>教師の再教育 94 19%</p> <p>学校側の設置 108 21%</p> <p>教師との情報を密に 96 19%</p> <p>地域社会の教育 58 11%</p> <p>家庭内の話し合いを密に 126 26%</p> <p>その他 18 4%</p>
<p><b>問3 関心の有無</b></p> <p>大いにある 63 35%</p> <p>多少ある 80 45%</p> <p>普通 31 17%</p> <p>あまりない 2 1%</p> <p>全くない 3 2%</p>	<p><b>問6 何もしない理由</b></p> <p>自分がいじめられる 15 29%</p> <p>面倒くさい 20 38%</p> <p>いじめは無くなる 6 12%</p> <p>いじめられるのは当然 2 4%</p> <p>いじめを見て楽しい 0 0%</p> <p>その他 9 17%</p>	<p><b>問9 見ている周囲に問題はありますか</b></p> <p>あると思う 144 80%</p> <p>ないと思う 11 6%</p> <p>分からない 25 14%</p>	

## 4 結果の理論的考察

真田是の三次元のフレームワーク理論によれば「政治・経済・文化状況」が「社会的メカニズムの部分」を意味する。それは一方で「パーソナリティ・個別環境」を直接に規定し、他方で「家庭・地域状況」、「労働・生活状況」といった個人にとってより身近な「社会」(集団)を經由して「パーソナリティ・個別環境」をも規定する。次に、なぜだれがこのメカニズムに巻き込まれて「いじめられる」現象の状態に置かれるか、その要因について考察する。次の①から③の3つの要因が挙げられると真田は考える。①「その個人の生産関係のなかで占めている位置」②「生産関係に占める位置以外の社会的属性」③「個人的な属性」である。「いじめ」事象とは「社会」から切り離された「個人の病理」ではなく例えば、消費文化の浸透による社会のモラル低下、非行など「個人」を通じて現れ出てくる症状である。

文献：山上賢一 2007『教員の労働と疎外』星雲社、山上 賢一 2009『現代の社会病理と福祉—より良い社会を目指して—』晃洋書房